

1. 評価結果概要表

作成日 21 年 10 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	1890600032
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	愛の家グループホーム勝山荒土
所在地	勝山市荒土町新保10-109-2 (電話) 0779-89-3880

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年8月18日	評価確定日	平成21年10月23日

【情報提供票より】 (21 年 8 月 8 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人、非常勤 1 人、常勤換算 13.0 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950 円	

(4)利用者の概要

利用者数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5	要介護2	6
要介護3	4	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 82.5 歳	最低 69 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	たけとう病院、クニリカ・デ・ふかや、ナカミチ歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの運営母体は、埼玉県に本社をもつ全国107か所で「愛の家グループホーム」の運営をしているメディカル・ケア・サービス株式会社である。

当ホームは平成20年8月に開所し、勝山市の郊外の田園が広がる住宅地の中に位置し、閑静で霊峰白山が望める自然豊かな環境である。建物は木造平屋建てで2ユニットが玄関で連なり、入居者はユニットを自由に行き来することができる。木製のテーブルとベンチが置かれた玄関前は、開放的でつるぎの場として入居者が好んで利用している。

管理者と各ユニットのリーダーが職員を指導し、「その人らしいシルバーライフのお手伝い」を理念に一人ひとりの入居者の思いに沿って、日々の生活に喜びが持てるケアに取り組んでいる。開所1年を経て、入居者と職員には馴染みの関係ができ、入居者は得意なことや家事等の役割をもち、楽しく穏やかに暮らしている。また、2年目の今年は、管理者が運営推進会議や公民館を通じ地域との交流を働きかけたり、消防署や駐在所等へ協力要請に取り組んだりするなど、徐々に地域との支えあい広がってきている。

今後は、ホーム独自の理念の作成や職員研修の計画的実施などに取り組み、より質の高いサービスを目指すことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価の受審である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の受審が初回ということもあり、自己評価は各ユニットリーダーが行い、管理者が助言にあたり作成した。ほとんどの職員が関わっていないため、評価についての意義は理解されていないが、管理者は自己評価を通して評価の意義、各項目の振り返りの重要性を痛感しており、今後は全職員が自己評価の過程に関わることや外部評価での改善点を話し合っていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、市担当者・地域包括支援センター職員・区長・老人会長・民生委員・家族・職員が参加し、偶数月の第2火曜日に開催している。内容は、ホームの運営状況報告や地域密着型事業所として理解いただくために協力をお願いし、各委員からは情報や助言をもらったりして、活発に行われている。地域の関係者は協力的で、消防署員を講師に災害時の避難・地域住民の協力をテーマに指導を受けたり、納涼祭には多くのボランティアや地域住民にも参加してもらい入居者と一緒に楽しんでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見や要望は、面会時や電話等を通じ直接話し合っている。また、毎月入居者の生活や健康状態を写真を添えて家族に報告している。この他、先日第1号が発行されたホーム便り「なんとものお」は、これからも2か月毎に家族に送付する予定である。今後は、ホーム便りの内容の充実やホームでの行事へ家族の参加を呼びかけ、家族の安心・信頼・運営への協力を得る取り組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームは自治会に加入し、入居者と職員が地区の運動会や敬老会等の行事に参加している。日常的には、毎日のように散歩に出かけ近隣の方と気軽に挨拶し話している。先日のホームの納涼祭は地区のボランティアや住民が参加しにぎやかに開催された。今後は、地区消防団と連携しての避難訓練、入居者の散歩中のごみ拾い、ごみ置き場の清掃等を検討している。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体が掲げる「その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします」「心を込めた、親切なサービスに努め、その心を磨き続けます」「様々な機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にします」という運営理念をホームの理念として掲げている。		ホーム開設2年目を迎え、入居者や地域・ホームの状況にあった独自の理念を職員で話し合い作成されることを期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は玄関・事務室等に掲示され、朝礼時に唱和して職員への意識づけをしている。管理者はケアの現場において理念に沿ったサービスが提供されるよう職員に助言している。		理念に基づいた具体的なケアについて全職員で話し合い、意見の統一を図るような取り組みを期待したい。
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に密着したホームとして、地域との交流には積極的に取り組んでいる。日常の散歩時、地区の運動会や敬老会への参加、運営推進会議で情報交換を図るなど、着実に交流の輪が広がっている。ホームの納涼祭では地区のボランティアや住民と一緒に楽しみ、秋には地域の子供たちの訪問が予定されている。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットリーダーが行い、管理者が助言にあたり作成した。ほとんどの職員が関わっていないため、評価についての意義は理解されていないが、管理者は自己評価を通して評価の意義、各項目の振り返りの重要性を痛感しており、今後は全職員が自己評価の過程に関わることや外部評価での改善点を話し合っていきたいと考えている。		全職員が評価の意義を理解し自己評価に取り組み、より質の高いサービスを提供することを期待したい。
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市担当者、包括支援センター職員、区長、老人会長、民生委員、家族、職員が参加し、偶数月の第2火曜日に開催している。内容は、ホームの運営状況報告や地域密着型事業所として理解いただくために協力をお願いし、各委員からは情報や助言をもらったりして、活発に行われている。行事について話し合ったり、消防職員を招いて災害時の避難・地域住民の協力をテーマに指導も受けている。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課や包括支援センターに運営やサービス等について相談し、指導をもらっている。市の介護相談員も2か月に1回来所し、入居者との話し合いを持っている。		
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等での報告の他に、毎月入居者の生活状況や健康状態について記入した手紙に写真を添えたものを送付している。また、ホーム便り「なんともお」を創刊し、今後2か月毎に家族に送付していく予定である。		家族や住民からより一層ホームへの親しみや信頼を得るためにも、ホーム便りの内容をさらに充実することを期待したい。
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望等は面会時や電話等で直接聞くようにしている。各ユニットの玄関には意見箱が設置されているが、今のところ利用はない。県外在住の家族が多いため、家族会は結成されていない。		今後、行事後に家族同士で懇談するような機会を設け、事業所運営について意見をもらえるような取り組みを期待したい。
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所1年目は管理者の異動があったが、今年度は管理者・各ユニットリーダー・職員が定着しており、馴染みの関係が継続されている。職員の異動はできる限りしないようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体は職員の研修参加を推奨しており、外部研修には主に管理者・ユニットリーダーが参加し、受講内容を全体会議で報告し共有している。外部研修の案内はスタッフルームに掲示され、希望者は自主的に参加し研鑽している。		今後、全職員が段階的に資質を向上していくためにも研修を業務の一環として、計画的に取り入れていくことが望ましい。また、職員が分担し各テーマで意見交換や技術習得等の内部研修に取り組みられることも期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と交流をもち情報交換している。県認知症高齢者グループホーム連絡協議会には加入していない。		県グループホーム連絡協議会の会議や研修にも参加し、できるだけ多くの同業者との情報交換や相互訪問等による交流・ネットワークづくりに取り組むことが望ましい。
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際は、本人や家族にホームのことを十分に理解してもらえるよう説明し、納得してもらった上で入居に繋げている。入居当初は、生活歴や思いを十分に聴き取り、本人の気持ちに寄り添いながら個別の対応をして徐々に馴染んでいくよう配慮している。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の生活を支える協力者として、入居者本位の支援を行っている。また、勝山の歴史や野菜づくりや生活の知恵等、入居者から職員がいろいろ教えてもらっている。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者一人ひとりの言葉や行動にも留意し理解するように努めている。アセスメントで入居者本人がやりたいことを把握し、思いを尊重した支援を心がけている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から聴き取りをしてアセスメントし、職員が意見を出し合いケアカンファレンスを経て、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は一人ひとりの経過記録を基にモニタリングし3か月に1度見直している。心身の状況変化があった場合は、随時見直している。		日々の具体的援助を x で記録し、介護計画見直し時の資料としているが、次の支援に繋げていくために介護計画に沿った具体的内容を記述することを期待したい。
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の誕生日には、希望を聞き外食やプレゼント等の個別のお祝いをしている。また、馴染みの美容院への付き添いも支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望する医療機関での受診を支援し、医療機関とホームが情報を共有し連携するよう取り組んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師が週2回勤務し、入居者の健康管理や往診時に対応している。重度化や終末期の支援についての方針は、話し合っていない。		今後、重度化・終末期の支援のあり方について、個々の入居者家族の意向を把握し、職員の勉強会やかかりつけ医と話し合いを重ね、関係者が方針を共有していく取り組みが望まれる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者に対して敬語で話しかけ、居室への出入りの際にも丁寧な言葉かけが行われていた。重要な個人情報は、コンピューター上でパスワード管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮し気持ちを尊重して無理のない過ごし方を支援している。入居者の習慣で朝一番に散歩に出る人、家族の了解のもと喫煙やお酒をたしなむ人もいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食事前後の挨拶や片付け等職員と入居者は一緒に行っている。食卓と一緒に座って会話をしながら、見守りや介助がなされていることがうかがえた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回、個別に支援している。日中の時間であれば曜日は固定せず、本人の好みや都合に対応している。朝風呂を習慣としている男性入居者もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることややりたいこと、培ってきたことを活かす支援が日々行われている。訪問当日、職員と一緒に日除けのすだれに飾り付けをしている方や毛糸で小物作りをしている方、洗濯物をたたんでいる方等、それぞれが自由に過ごされていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、周辺へ散歩に出かけ、地域住民に挨拶したり、飼い犬と触れ合ったりしている。玄関前には木製のテーブルとベンチが置かれ、自然との触れあいを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営母体の方針で、日中は玄関の鍵を開放している。玄関の状況は職員の目配りで見守られ、入居者は自由に出入りしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施している。また、運営推進会議で消防署員の指導を受け、地域からの消火や避難協力について話し合われている。この他、災害に備えて食品飲料水等が備蓄されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営母体からの調理指示書に基づいており、栄養バランスの確保されたものを提供している。食事量や水分摂取量だけでなく、排便チェックや体重測定等も記録され、入居者の健康管理が行われている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を挟んで各ユニットがあり、入居者は自由に行き来している。屋内は明るく清潔に保持され、居間には畳の間やソファがあり、入居者のくつろぎの場となっている。玄関前の木製のテーブルとベンチは開放的で入居者がよく利用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、ベッド・畳・家具類全てが入居者の馴染みの物や使いやすい物が持ち込まれている。孫が描いた似顔絵や自分の手作りの小物を飾っている等、それぞれが個性あふれる居室になっている。		

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1、その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。2、心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けてます 3、さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時唱和してから日々の業務を開始している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	3、さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします。 の理念のもと、地域の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方に来て頂いたりしている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方には会ったら挨拶や話をしたりしている。入居者様と散歩に行ったときもであった方と挨拶したり、お話ししたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や敬老会に参加する。今後も文化祭や町民運動会にも参加予定。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できていない		散歩中にゴミ拾いをしたり、地域のゴミ捨て場の掃除をしたいと考える。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	適正な運営をしていくために、修正点は改善していく。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第2火曜日に実施。地域の方の方に運営状況を報告する。地域の方と関わっていく為にどうしたらいいか？常に話し合いをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアプラン等で分からないことや、確認したいことがあれば市町村担当者と相談に行っている。困難ケース等ある時も相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施できていない		勉強会を通じて、権利擁護や成年後見制度の知識を職員につける。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待については勉強している。		虐待防止委員会の設置
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に書かれている内容をすべて説明し、納得した上で契約をして頂く。そこで利用者や家族からの不安や疑問点はアセスメント等に記載している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度介護相談員がホームに来られ入居者様とお話される。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度家族宛にホームでの生活の様子や健康面の報告を写真をつけて手紙にてお知らせしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ハート支援室や介護相談 地域づくり連絡会の電話番号をホーム玄関に掲示している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議を月に一度設け、その際職員から意見や提案を聞いている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に希望休を確認し、臨機応変に勤務が変更d切るようにしている。どうしても無理なときは調理や事務所のスタッフに入ってもらっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあまりない。ある時は事前に入居者様に説明をする。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内はスタッフルームに掲示し、誰でも参加できるようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度勝山市のケア会議に参加している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員とのコミュニケーションを多くとり、悩みや困っていることを何でも打ち明けられる関係作りを作っている途中。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に工夫改善し、昨日より今日、今日より明日と、質の向上心を持って働けるように努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いをしっかりと聞き、アセスメントに残して、ケアプランに反映する。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いをしっかりと聞き、不安な事、求めている事を受け止めて、問題解決できるように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が一番困っていることをケアプランの一番上に置いている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活歴等を本人や家族から聞き取り、その人らしく過ごしていけるようにしている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食事の準備等入居者様と一緒にやっている。職員が代替的にするのではなく、一緒に入居者様とやっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら、家族にお願い出来る事は家族にお願いしてお互いが協力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	困ったことや気になることは家族に何でも報告し、お互いが何でも言い合えるような関係作りを作ろうとしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋や歯医者等は行きつけの店に行くようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝モーニングタイムを設け、入居者様全員が関われるような時間を作っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了されての方はまだおられません	○	もし退去されても、関係は、断ち切らないようつきあいを大切にしていきたいです。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時にしっかり話を聞き、ケアプランに反映している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦は聞き取っているが、家族からは聞き取りがあまり出来ていない。		家族からの聞き取り。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントで状況を把握している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスを開催している。		家族の参加

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度プランの見直しを行っている、その際担当者会議を開催し話し合いをしている。身体状況の低下等でプランが計画通りできないときは、その都度変更する。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記載し情報共有を図っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況を把握し、柔軟に対応できるようにしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方、警察の方、消防署の方々と協力しながら必要に応じて支援をしていただいています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケア会議に参加し、他事業所やケアマネージャーと困難ケース等相談している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアプランを確認してもらい、困難ケースは相談している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニカデフふかやたけとう病院と提携し、2週間に1回往診がある。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	たけとう病院と提携し、1ヶ月に1回往診がある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ナースが訪問時、Drと相談をしながら健康管理を行う。		ホームのナースが入居者様と関わり状態を把握し、対応していく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院に足を運び、ナースやDrと情報交換している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	実施できていない		終末期どのように迎えたいか、本人と家族に聞き取りをする。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	ホームでは医療的なことは出来ないということを家族、Drの相談している。		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	家族との話し合いを十分持ちたいと、思います。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	抑制するような言葉は使わないように職員全体で意識している		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	出来る限り、本人の意志を尊重し、本人がやりたいことが実現できるように工夫している。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員の都合に合わせるのではなく、入居者様の思いのままできるように努力している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	昔から本人が行っている行きつけに行く。		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	入居者様が好きな食べ物を把握し、調理と相談し献立に入れてもらう。どうしても提供が無理なときは外食等で対応する。		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	本人が訴えがあったとき等に提供できる体制になっている。お酒は夜のみで対応している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表でパターンを把握し、早めに声かけするなどの対応をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回入浴と職員が決めてしまっている。		入居者様に入浴の呼びかけ等をする機会を持つ。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人自分のペースで安眠が取れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の役割はそれぞれの力に合わせて決まっている。入居者様全員が集まって話をしたり、ゲームをしたりする時間を設けている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは、本人が目的のある金額をお出しして、いつでも対応可能な支援をしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩を実施し、外に出るようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会は少ないがドライブもかねて出かける機会を設けている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときには、使い方を説明し、いつでもかけられるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して下さる。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体抑制のことは、全体会議、朝礼などでよく話をしています。理解はしていますが詳しく内容が説明不足	○	勉強会を通じて、知識を職員につける
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けたことはありません。鍵は夜間玄関のみです。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様がよく通る通路や居室等に危険がないか日々確認する。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状態に応じて、危険配慮している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に危険予測し、事故防止に取り組む		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に救急救命の指導をしてもらう。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方に火災や地震時の協力をお願いはしてある。		地域の方と一緒に避難訓練
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて家族のに説明をし、抑圧感のない暮らしを大切にできるように理解をして頂き話し合いをしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員がいつもと違う気づきを大事にし、バイタルを測ったりやDrに相談したりし、異常の早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が薬の把握は出来ていない。		薬の把握を全職員が出来るようにする。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認が取れていない入居者がいる。便が出ていないと分かる方には乳製品や水分を多くと摂ってもらっている。それでもでないときはDrに相談し、薬の調整を行う。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後 口腔ケア声かけを行い、実施できている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の摂取状況が把握できていない。		水分の摂取状況をしっかり把握し記録に残す。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会でそれぞれの感染経路や予防の仕方勉強している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の前は、十分な手洗いと調理器具は75度で45分乾燥機対応、生野菜などは、熱湯にくぐらせ調理し管理に努めます。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープ、階段には手すりの対応をし、利用者様、家族、近隣の方が安心して自由に出入りできる対応しています。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく使っていただく為、常にきれいに保持できるよう意識している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に使えるようになっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたものをそのまま持ってきて頂くようお願いする。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間喚起を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や食事の準備等を、一緒に入居者様と共に生活できるように、自立した暮らしにしています。	掃除や食事の準備等を	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人がやりたいことは何かを知ることで、出来る力を自然に取り組めるように工夫している。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に手すりやスロープがないため、危険のリスクが大きい為、今後の計画に入れてもらうように、提案していきたい。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

天気の良い日は 毎日散歩をし近所の方と交流しています。
毎朝口腔体操を実施し、言葉が上手く話せない方が少しでも話せるように実施しています。
全入居様がリビングで交流する時間を設けています。

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。2心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けてます。3さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時唱和してから日々の業務を開始している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	「さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします。」の理念のもと、地域の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方に来て頂いたりしている。		
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方には会ったら挨拶や話をしたりしている。入居者様と散歩に行ったときもであった方と挨拶したり、お話ししたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や敬老会に参加する。今後も文化祭や町民運動会にも参加予定。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できていない	○	これから地域の方に、役立つ事を考えて取り組みたい
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	適正な運営をしていくために、修正点は改善していく。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第2火曜日に実施。地域の方に運営状況を報告する。地域の方と関わっていく為にどうしたらいいか？常に話し合いをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアプラン等で分からないことや、確認したいことがあれば市町村担当者と相談に行っている。困難ケース等ある時も相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施できていない	○	
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待については勉強している。		虐待防止委員会の設置
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に書かれている内容をすべて説明し、納得した上で契約をして頂く。そこで利用者や家族からの不安や疑問点はアセスメント等に記載している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度家族宛にホームでの生活の様子や健康面の報告を写真をつけて手紙にてお知らせしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ハート支援室や介護相談 地域づくり連絡会の電話番号をホーム玄関に掲示している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議を月に一度設け、その際職員から意見や提案を聞いている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に希望休を確認し、臨機応変に勤務が変更d切りにしている。どうしても無理なときは調理や事務所のスタッフに入っていただく。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあまりない。ある時は事前に入居者様に説明をする。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内はスタッフルームに掲示し、誰でも参加できるようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度勝山市のケア会議に参加している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員とのコミュニケーションを多くとり、悩みや困っていることを何でも打ち明けられる関係作りを作っている途中。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に工夫改善し、昨日より今日、今日より明日と、質の向上心を持って働けるように努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いをしっかりと聞き、アセスメントに残して、ケアプランに反映する。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いをしっかりと聞き、不安な事、求めている事を受け止めて、問題解決できるように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに出来る対応は、支援に努めていますが、他のサービスも受けられるように対応している。	○	他のサービスのご理解をこれから家族の方にもご理解をいただけるように努めたいです
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活歴等を本人や家族から聞き取り、その人らしく過ごしていけるようにしている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食事の準備等入居者様と一緒にしている。職員が代替的にするのではなく、一緒に入居者様と行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら、家族にお願い出来る事は家族にお願いしてお互いが協力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	困ったことや気になることは家族に何でも報告し、お互いが何でも言い合えるような関係作りを作ろうとしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会、ドライブなどで場所などお伺いをして、支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩、レクリエーションなど声かけし関わりを持つように、対応している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了されての方はまだおられません	○	もし退去されても、関係は、断ち切らないようつきあいを大切にしていきたいです。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時にしっかり話を聞き、ケアプランに反映している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中で、今までの人生苦労話、家族のことなど、経過を把握し発見している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方にとって、何が生活の場なのかを把握し、対応に心がけている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスを開催している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度プランの見直しを行っている、その際担当者会議を開催し話し合いをしている。身体状況の低下等でプランが計画通りできないときは、その都度変更する。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子の变化など、ケアマネに相談し、個人記録に記載し情報共有を図っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況を把握し、柔軟に対応できるようにしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方、警察の方、消防署の方々と協力しながら必要に応じて支援をしていただいています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケア会議に参加し、他事業所やケアマネージャーと困難ケース等相談している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアプランを確認してもらい、困難ケースは相談している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニカデフふかややたけとう病院と提携し、2週間に1回往診がある。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	たけとう病院と提携し、1ヶ月に1回往診がある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ナースが訪問時、Drと相談をしながら健康管理を行う。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院に足を運び、ナースやDrと情報交換している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	実施できていない	○	終末期どのように迎えたいか、本人と家族に聞き取りをする。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	ホームに出来る対応は、支援に努めていますが、受けられない対応は、かかりつけ医と相談して取り組みをしている。		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	家族との話し合いを十分持ちたいと、思います。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	抑制するような言葉は使わないように職員全体で意識している		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	出来る限り、本人の意志を尊重し、本人がやりたいことが実現できるように工夫している。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員の都合に合わせるのではなく、入居者様の思いのままできるように努力している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人のなじみの理容・美容を希望に応じて、対応している。		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	入居者様が好きな食べ物を把握し、調理と相談し献立に入れてもらう。どうしても提供が無理なときは外食等で対応する。		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	本人の好きなもの、たばこ、お酒など家族の許可の元、日常を日常支援しています。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄を把握し、様子観察、声かけし、支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回入浴と職員が決めてしまっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ホームとして、家に居る、本人の思いで、休息・安眠を取っていただけるように支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の役割はそれぞれの力に合わせて決まっている。入居者様全員が集まって話をしたり、ゲームをしたりする時間を設けている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは、本人が目的のある金額をお出しして、いつでも対応可能な支援をしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩を実施し、外に出るようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	鯖江のつつじ祭り、岩屋観音の花見、大野の芝さくら、ゆめお～れ、竹人形のしだれさくらなど、行きたいといわれる所など、希望に応じて機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、お掛け出来るように支援している。手紙の希望があれば対応支援する。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に面会していただき、居室で和やかに話をされています。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体抑制のことは、全体会議、朝礼などでよく話をしています。理解はしていますが詳しく内容が説明不足	○	勉強会を開いてスタッフにより理解と把握をしていただく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けたことはありません。鍵は夜間玄関のみです。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様がよく通る通路や居室等に危険がないか日々確認する。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状態に応じて、危険配慮している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に危険予測し、事故防止に取り組む		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1回目の消防署に救急救命の指導をして頂きました。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方に火災や地震時の協力をお願いはしてある。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて家族のに説明をし、抑圧感のない暮らしを大切にできるように理解をして頂き話し合いをしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員がいつもと違う気づきを大事にし、バイタルを測ったりやDrに相談したりし、異常の早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が薬の把握は出来ていない。		薬の把握を全職員が出来るようにする。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認が取れていない入居者がいる。便が出ていないと分かる方には乳製品や水分を多くと摂ってもらっている。それでもでないときはDrに相談し、薬の調整を行う。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後 口腔ケア声かけを行い、実施できている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の摂取状況が把握できていない。		水分の摂取状況をしっかり把握し記録に残す。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会でそれぞれの感染経路や予防の仕方勉強している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の前は、十分な手洗いと調理器具は75℃で45分乾燥機対応、生野菜などは、熱湯にくぐらせ調理し管理に努めます。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープ、階段には手すりの対応をし、利用者様、家族、近隣の方が安心して自由に出入りできる対応しています。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく使っていただく為、常にきれいに保持できるよう意識している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の自由に使用出来るようになっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたものをそのまま持ってきて頂くようお願いする。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間喚起を行っている。温度計を置いて外気温との大きな差がないように、配慮している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や食事の準備等を、一緒に入居者様と共に生活できるように、自立した暮らしにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人がやりたいことは何かを知ること、出来る力を自然に取り組めるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に手すりやスロープがないため、危険のリスクが大きい為、今後の計画に入れてもらうように、提案していきたい。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の利用者の2/3くらいの利用者の1/3くらいのはほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人の思いを重視して、玄関のベンチで外の景色を眺めてゆったりのおんびりした時間を楽しんだり、レクで毛糸のぬいぐるみを作ったりして、楽しんでいます。買い物は入居者様と共に楽しんでいきます。